

平成12年度

秋田県環境センター年報

第28号

ANNUAL REPORT
OF
ENVIRONMENTAL RESEARCH & INFORMATION CENTER
OF AKITA PREFECTURE

No. 28 2000

秋田県環境センター

Environmental Research & Information Center
of Akita Prefecture(ERICA)

はじめに

平成12年度は、当センターにとって大きな節目の年でした。

まず、機構改革による本庁組織の再編に合わせて、環境センターと名称を改め、内部の組織も「総務」、「監視・情報」、「化学物質」、「大気・水質」の四班に再編しました。これは、「秋田県環境基本計画」(平成10年策定)において重点プロジェクトとして掲げた化学物質や廃棄物対策、環境教育、八郎湖の水質浄化等の推進を視野においたものということができます。

環境教育については、環境学習室の利用やホームページによる環境情報の提供のほか、小学校等の教育現場と連携した環境学習への取り組みを始めました。

また、喫緊の課題であるダイオキシン類の分析体制を確立するため、分析技術の修得・向上を図るとともに、分析施設については13年度内の完成を目指して整備を進めております。

一方、本県に固有の環境問題、とりわけ八郎湖、十和田湖等湖沼の水質改善は依然として大きな課題であります。田沢湖では、12年度に初めてCODが環境基準を超えましたが、酸性化対策とCODとの関係解明等については今後の研究課題であります。

12年度末には、県が地方機関も含めてISO14001の認証を取得し、率先して環境負荷の低減に取り組んでいくことになりました。当センターでも、試験研究業務に伴う省エネ、使用薬品や廃棄物の削減に努めております。

予算、人員はもとより、研究課題の外部評価の導入など試験研究機関を取り巻く状況はますます厳しくなるものと思われませんが、今後とも職員一同の創意工夫により効率的な業務運営に努めてまいりたいと考えております。

本年報は、平成12年度における調査・研究の概要を取りまとめたものであります。今号から表紙のデザインを一新しましたが、表紙のみならずコンテンツ(中身)も変えていこうという思いを表したつもりです。ご高覧のうえ、ご意見やご助言をいただければ幸いです。

平成13年12月

秋田県環境センター

所長 真壁 江田男